

障がい児保育研究室（荒井庸子先生）

▶荒井先生はどのような研究や活動に取り組んでいますか？

特別な支援を必要とする子どもの発達支援とその家族支援を主な研究テーマとして活動しています。子どもの発達過程を理解した上で、子どもの生活や遊びの姿を見つめてみると、今その子の中に芽生えてきている力に気づかされます。一見すると「困った」行動も子どもにとっては発達したい「願い」であることが分かると、保育や子育てへの考え方も大きく変わります。

私の原点は、これまで自治体の発達相談員として乳幼児健診や親子教室・療育教室に携わり、保育所・幼稚園とつながり合いながら取り組んできたことにあります。現在は、研修会の講師として保育現場の先生方と共に学び、保育者を目指す学生のみなさんの養成に関われることに喜びを感じています。

▶この研究室やゼミ（4年次）のことについて教えてください。

ゼミでは、子どもの姿を発達、障がい、保育場面の条件など多角的な視点から考察し、保育者の援助について検討していくことを大切にしています。また、子ども一人ひとりの理解を深めると同時に、子ども同士が育ち合える保育についても一緒に考えていきたいと思えます。家族支援を研究テーマとする場合にも、子どもの発達過程を踏まえながら、保護者の子育て上の困難と支援のあり方について検討していきます。そして、将来、保育者として働く際に、ゼミでの学びを日々の保育の振り返り、子どもの発達や興味関心に応じた保育を計画することにつなげてほしいと願っています。

《ゼミ生の声》

- ・「障がい」について多様な視点から学びを深めることができます（子ども、その保護者・きょうだいへの支援、インクルーシブ保育など）。自分の興味がある事を深く探求していくことは面白いです。また、ゼミの仲間と意見交換することで、自分の研究テーマ以外の学びもあり、互いに高め合っていることを実感します。
- ・荒井ゼミの魅力は、「絶対に人の意見を否定しないで聞いてくれるところ」「意見を求めたら必ず120点の返答をもらえるところ」。

◎ゼミを通して得たものとは？

- 「自分で考える力」「自分の意見を伝える力」
- 「人の話を聞く力」「仲間とがんばる充実感」



▶もっと知りたい方へ（参考資料）

《主たる著書》

- ・『発達障害児の発達支援と子育て支援—つながって育つ・つながりあって育てる』かもがわ出版、2016年5月（共著）
- ・『新時代の保育双書 乳児保育（第4版）』みらい、2020年3月（共著）
- ・『子どもの育ちを支える保育の計画と評価』北大路書房、2022年3月（共著）